

(別添様式3)

平成28年度 探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業実施報告書

学校名	安芸市立清水ヶ丘中学校
研究内容等掲載ウェブサイト URL	http://www.kochinet.ed.jp/seisuigaoka-j/
研究のキーワード	
1. 教科等の授業改善 (1) 授業のアクティブ・ラーニング化 (2) ICTを活用した授業の工夫 (3) 生徒指導の三機能を意識した授業の工夫 2. 総合的な学習の時間の充実 (1) 探究のプロセスを重視した学習 (2) 身に付けたい能力の明確化と振り返りの実施 (3) 教科等での学びを生かす工夫	
研究成果のポイント	
○清水風授業スタンダードの作成と実践等による授業改善 ○総合的な学習の時間の年間計画、単元計画の見直しと実践による充実 ○学力向上の検証（全国学力・学習状況調査、高知県学力定着状況調査、安芸市版学力調査）	

1 1年間の主な取組

平成28年度	○保護者への周知（今、求められている力、めざす授業のゴールを共有 4/23 P T A総会） ○生徒への周知会（今、求められている力、めざす授業のゴールを共有 7/1 ） ○研究授業による授業改善→公開授業研、研究発表会、教科研（外部からの参加者延べ74名） ○校内研修（主なもの） 5/18 全国学力・学習状況調査自校採点分析、各教科共通の手立ての確認、「探究的な学習について」ビデオ視聴によるイメージ共有 8/3 小中学校教育課程研修Ⅰ（オンデマンド研修）「学習指導要領の趣旨を生かした言語活動」 清水風授業スタンダード作成のためのワークショップ 8/25 小中学校教育課程研修Ⅱ（オンデマンド研修）「特別の教科 道徳」 清水風授業スタンダードの基本案検討 11/16 先進校視察報告（広島県三次市立塩町中学校、秋田県横手市立横手北中学校、京都府京都市立下京中学校） 2/22 高知県学力定着状況調査結果分析共有 3/8 先進校視察報告（秋田県横手市立横手北中学校、福岡県ICT活用教育研究事業研究発表会） ○指定校関係の研修会等 「総合的な学習の時間のカリキュラム検討会」（第1回）5/20 「探究的な授業づくりのための教育課程研究実践事業連絡協議会」8/24
--------	---

	「総合的な学習の時間のカリキュラム検討会」(第2回) 12/13 ○先進校視察 10/4 広島県三次市立塩町中学校、10/22～23 学力向上フォーラム(秋田県横手市立横手北中学校) 11/14 京都府京都市立下京中学校、2/22～23 秋田県横手市立横手北中学校 ○指定校研究発表会等への参加 ○研究部会と生徒会各専門委員会がリンクした取組 ○家庭学習充実のための手立て ○総合的な学習の時間の単元計画等の作成(9能力の振り返りの実施) ○検証のための各種アンケート調査の実施
--	--

2 具体的な研究活動(研究内容・方法、研究を進める上での工夫点等)

(1) 保護者への目指す生徒像の実現に向けた方針の周知会

4月23日(土)のPTA総会で、校長から「今、求められている力、めざす授業」について、保護者に説明をした。保護者からは、「これから求められる力を付けるために学校が変わろうとしていることが分かった」という感想をいただいた。

(2) 生徒への「目指すべき授業」の共有

7月1日(金)に、生徒への周知会を行った。研究主任から、学校として共通に取り組むこと、授業づくりの視点となるものを示した。生徒たちは、日々の授業においてこれまで以上に、言語活動や探究的な授業に習熟してきているが、それは何のために行うのかということをもより深く理解してもらうことをねらいとして行った。

(3) 研究授業による授業改善

公開授業研究会を6月(国語)と11月(保健体育)の2回、研究発表会での公開授業研を10月(総合的な学習の時間)に1回、教科研究会を5月から2月の間に15回実施した。それぞれ東部教育事務所若しくは教育センターから指導主事を招き、指導・助言をしてもらった。

全教員が1回以上は授業研究会を行い、指導案の事前検討も含めて指導主事から指導を受けることとした。

指導案の作成に当たっては、本校の「研究の手引き」に基づいて行うこととした。本年度特に重点的に取り組んだことの具体は、

- ①単元観に学習指導要領を踏まえた内容を具体的に記述すること
- ②指導観には、研究主題を踏まえ、指導者が探究的な授業をどのように捉えているのかの視点の記述を入れること

である。また、評価委員の学校訪問で評価や意見をいただいた、展開部分へ「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」「ICTの活用」などを表示することも取り入れていくこととした。

授業研究事後協議は、ピンクの付箋(参考になったこと)、黄色の付箋(課題)を使い、ワークショップ形式で行い、最後に指導主事から指導・助言をいただくようにした。

(4) 校内研修

- ①5月18日(水)

Part 1

全国学力・学習状況調査の問題を解いた後、自校採点分析結果を基に、国語科、数学科の担当教員から重点ポイントの説明を受けた。理科については、昨年度の結果を基に重点ポイントの説明を受けて共有した。その後、校長から各教科共通の手立てについて説明があり、日々の授業実践に取り入れることを確認した。

- 根拠や理由をもとに説明する場面の設定と、根拠や理由を明確にして説明することの意識付け
- 複数の資料やグラフから内容を読み取って、それに基づいて考え、答えを導き出す展開の工夫
- 自分の考えをしっかりとつことを求める発問の工夫
- 文章の内容をしっかりと読み取る力をつける工夫
- 問いに対する適切な答えを導き出す力をつける工夫

Part 2

「探究的な学習について」昨年度に本校で行った社会科の実践を視聴し、新任教員や新採教員がイメージを共有できるようにするとともに、昨年度から継続して在籍している教員も探究的な学習について改めて確認した。

探究的な授業を目指すに当たって、本年度の重点として、導入では、生徒が主体的に追究し、必然的に本時の目標を達成するような「めあての設定」の工夫とそれに対応した「振り返り」を全教科・全教員で取り組むこととした。

② 8月3日（水）

Part 1（午前中）

ア 校長から、「平成 28 年度全国学力・学習状況調査自校採点結果及びそこから見える課題」「平成 28 年度安芸市版学力調査結果及びそこから見える成果と課題」「平成 27 年度高知県学力定着状況調査結果の経年変化」「2・3 年生の各種学力調査結果の同一集団経年変化」を使い本校の生徒の学力調査における状況を全教員で確認した。次に、研究主任から「平成 28 年度清水ヶ丘中学校授業改善の方策Ⅰ」として、前述の「各教科共通の手立て」と昨年度から、本年度の 1 学期までの授業研究会等において、指導主事等からの指導・助言のポイントとなるものをまとめた「探究的な授業にしていくために」を示した。そして、「平成 28 年度清水ヶ丘中学校授業改善の方策Ⅱ」として、5 教科の授業改善プランから 1 年間の取組の重点を抜き出してまとめたものを使い、組織的に授業改善を進め、学力向上につなげていこうと働きかけた。

イ 「探究的な授業づくりのための指導案について」の講話

東部教育事務所指導主事より、「探究的な授業づくりのための指導案」について講話をしていただいた。

ウ 授業スタンダードについての協議、発表、まとめ

本年度の重点である「めあての設定」「振り返り」を含め、「アクティブ・ラーニング」「生徒指導の三機能」「ICT の活用」「連絡黒板の工夫」を具体化するために授業スタンダードを全教員で作成することとし、アイデアを出し合うワークショップを

実施した。その際、高知県教育委員会作成の「高知県授業づくり B a s i c ガイドブック」と問題解決型「学びのスタンダード」安芸市版を参考にした。

全教職員で作ったものにするための工夫の一つとして、授業そのもののスタンダードだけではなく、授業前と授業後の教師の動き、生徒の動きもスタンダード化するためにアイデアを出すことにした。これは、特別なことではなく、これまでに各教員が授業を円滑に行うために、また、授業の質を高めていくために日常的に行ってきたことなので、意見やアイデアが出しやすかった。

Part 2（午後）

小中学校教育課程研修Ⅱ（オンデマンド研修）「学習指導要領の趣旨を生かした言語活動」「特別の教科 道徳」の動画を視聴し、研究主任を中心に協議を行い、2学期以降の研究や授業に生かしていくこととした。

③ 8月25日（木）

8月3日の研修で行った「授業スタンダードの素材」をもとに、全教員で検討し授業スタンダードをリニューアルした。

清水ヶ丘中学校の授業スタンダードとして特色を出すために、ネーミングを「清水風授業スタンダード」としたことと、「生徒指導の三機能」「ICTの活用」「連絡黒板の工夫」などを盛り込んでいくためには、1時間の授業の部分だけではなく、授業前と授業後の部分が重要になってくることから、大きく三つの部分に分けて、「授業前」「授業」「授業後」とし、さらに、教師と生徒の両方の活動や留意点等を記述するように工夫した。

また、平成28年8月1日の教育課程部会教育課程企画特別部会の「次期学習指導要領に向けたこれまでの審議のまとめ」の内容や、8月24日（水）に開催された「教育課程指定校連絡協議会」での内容も踏まえて、「主体的・対話的で深い学び（アクティブ・ラーニング）の視点からの授業改善」を明確に打ち出すために、主体的・対話的で深い学びについてスタンダードの冒頭に記述して、常にこのことを意識できるように工夫した。

（5）総合的な学習の時間の単元計画等の作成（9能力の振り返りの実施）

総合的な学習の時間の充実については、「探究のプロセスを重視した学習」「身に付けたい能力の明確化と振り返りの実施」について重点的に取り組んだ。そのために、探究のプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を位置付けた単元計画を立てた。先進校視察で訪問した広島県三次市立塩町中学校の取組から「9能力」を身に付けたい能力として、こちらも単元計画に位置付けることとした。9能力については、単元の最初に生徒に意識させ活動を行い、単元の最後に、「9能力振り返り表」を活用するようにした。学習活動を通してどのような能力が身に付いたのかを生徒により意識させる取組を行うこととした。

3 研究の成果と課題

(1) 検証

指標（検証）の内容	達成目標	検証結果
授業力チェックシート ①授業の振り返り 1～10 の項目	①各項目 3.5 以上	7 月・・・3.5 12 月・・・3.5
総合的な学習の時間で育った学力についての調査 ②項目 1～20	②各項目 3.5 以上	7 月・・・3.2 12 月・・・3.2
公開授業研究会参加者アンケート ③「授業について」「学校の取組について」	③肯定的評価 80.0%以上	10 月・・・85.0% 11 月・・・89.1%
家庭学習調査の生徒アンケート ④家庭学習時間 1 時間以上	④61.0%→75.0%以上	5 月・・・57.0% 11 月・・・58.0%
全国学力・学習状況調査 ⑤国語 A・B、数学 A・B の正答率	⑤全ての教科の A・B 問題で全国平均	国語 A +3.2 国語 B +6.4 数学 A -2.5 数学 B -1.2 国語において全国平均以上、数学では－3 ポイント以内
全国学力・学習状況調査 生徒質問紙（以下ア～ケ） ア 自分には良いところがある	ア 75.8%→80.0%以上	68.4%
イ 人の役に立つ人間になりたい	イ 97.0%→100%	93.0%
ウ 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意	ウ 50.0%→60.0%以上	49.1%
エ 将来の夢や目標を持っている	エ 80.3%→85.0%以上	72.0%
オ 総合的な学習の時間では、課題設定、情報収集、整理、発表などに取り組んでいる	オ 59.0%→70.0%	75.5%
カ 授業で自分の考えを発表する機会が与えられている	カ 89.4%→95.0%以上	91.2%
キ 授業で生徒の間で話し合う活動をよく行っている	キ 86.4%→90.0%以上	94.7%
ク 授業の始めに目標が示されている	ク 89.4%→95.0%以上	93.0%
ケ 授業の最後に振り返る活動をよく行っている	ケ 63.7%→70.0%以上	87.7%
高知県学力定着状況調査 ⑥国語、社会、数学、理科、英語の正答率	⑥県平均＋5 以上にし、記述問題の無答率 15%以下	1 年生（ ）内は記述問題無答率 国語＋1.3 (7.4%) 社会＋8.1 (20.4%) 数学＋5.4 (11.1%) 理科－4.3 (18.5%) 英語＋6.4 (43.2%) 2 年生（ ）内は記述問題無答率 国語＋7.0 (9.7%) 社会＋13.3 (20.5%)

		数学+6.4(22.6%) 理科+6.3(12.9%) 英語+6.7(31.2%)
安芸市版学力調査 ⑦国語、社会、数学、理科、 英語（1年生除く）の正答率	⑦1年生は全国平均+3以上 2・3年生は全国平均以上	1年生 国語-2.2 社会-6.3 数学-1.4 理科-5.6 2年生 国語+4.6 社会-1.2 数学-2.7 理科+3.5 英語+1.3 3年生 国語+4.1 社会+5.2 数学-0.6 理科+5.1 英語+0.6

（２）成果（番号は検証の表に対応）

①授業力チェックシートの生徒の授業の振り返り

目標の3.5を達成できた。

②総合的な学習の時間に育った学力についての調査

目標の各項目3.5以上には届かずに、7月 3.2、12月 3.2 だったが、1回目と2回目を比較すると、学習方法に関することが改善されていた。それは、探究のプロセスを重視したことによるものと思われる。

③公開授業研究会参加者アンケート

肯定的評価が10月 85.0%、11月 89.1%と目標である80.0%以上を達成できた。

要因としては、指導案段階で「授業力チェックシート」の内容に関わるようなこと（学習指導要領との関連、ねらいをつかませ課題意識をもたせること、話し合いや交流の目的を明確にして協働的な学びにしていける等）を十分検討し、授業に生かしていったことや、総合的な学習の時間の公開授業において、「探究のプロセスを重視」することを単元計画の段階から重点的に取り組んだことによって、参観者から、「子どもたちを新たな課題に出会わせる内容だった」「課題の発見・解決に向けた主体的な学びになっていた」などの好評価をいただいたこと等が考えられる。

⑤全国学力・学習状況調査

国語A+3.2、国語B+6.4と全国平均を上回った。

数学A-2.5、数学B-1.2と全国平均には届かなかった。

いずれも本校の前年の結果と比較すると大幅に改善されており、特に国語B（前年度比+12.6 数学B（前年度比+9.2）とB問題での改善幅が大きい。国語と数学の日々の授業の単元計画に活用問題に対応できる力をつける内容を盛り込むことや、それ以外の教科でも「平成28年度清水ヶ丘中学校授業改善方策Ⅰ」にまとめた各教科共通の手立てに取り組むこと等でB問題での改善につながったものと思われる。

生徒質問紙

オ 総合的な学習の時間では、課題設定、情報収集、整理、発表などに取り組んでいる
目標70.0%に対し、75.5%

キ 授業で生徒の間で話し合う活動をよく行っている

目標 90.0%以上に対し、94.7%

ケ 授業の最後に振り返る活動をよく行っている

目標 70.0%以上に対し、87.7%

以上の項目で肯定的評価が目標を上回った。

総合的な学習の時間においては、昨年度から見直しを進めていく中で、「探究のプロセスを重視」することに取り組んできた。各教科の授業においては、これまでも、教育課程拠点校の指定研究の時から言語活動に取り組んできたこと、探究的な授業づくりの指定研究に取り組み始めてからは、「めあての設定とそれに対応した振り返り」に取り組んできたことが要因として考えられる。

⑥高知県学力定着状況調査

県平均+5以上を達成できたのは、

1年生の社会+8.1、数学+5.4、英語+6.4

2年生の国語+7.0、社会+13.3、数学+6.4、理科+6.3、英語+6.7と2年生では全ての教科で+5以上の目標を達成できている。

記述式問題の無答率が15%以下だったのが、

1年生の国語7.4% 数学11.1% 2年生の国語9.7% 理科12.9%となっている。

1年生については、目標に届いていない教科があるものの、4月の安芸市版学力調査で厳しい状況だったものが中学校入学後の学習によって、1月の高知県学力定着状況調査では改善傾向にあることは授業改善を進めてきたことの成果である。

また、2年生においても、4月の安芸市版学力調査では社会や数学で全国平均に届いていない状況だったものが、1月の高知県学力定着状況調査では、どの教科も県平均を大きく上回る結果になっており、授業改善と日々の授業に対する教員と生徒の真摯な取組により生徒と教員の信頼関係が育まれていると考える。Q-Uの結果にも成果が見られる。

⑦安芸市版学力調査

2年生の全国平均以上は、国語+4.6、理科+3.5、英語+1.3

3年生は数学が-0.6だが、その他の教科は全て全国平均以上となっている。

指標にはあげていなかったが、授業力チェックシートの教員の自己評価が

1回目 2.6 → 2回目 2.9

と大きく改善された。これは、「清水風授業スタンダード」の取組によって、研究の方向性が定まったとともに、各教員が生徒の姿を通して取組のよさを実感していると考えられる。組織としての取組が進んでいることの現れであると捉えている。

(3) 課題（番号は検証の表に対応）

②総合的な学習の時間に育った学力についての調査

12 話し合いのときに、班やクラスの意見をまとめることができる 68.1%

19 教科で学習したことを生かして、総合的な学習で調査や分析をしている 69.9%

20 家族と総合的な学習について話すことがある 50.0%

これらの項目で特に肯定的意見が低くなっている。

④家庭学習調査の生徒アンケート

家庭学習1時間以上が、5月 57.0%、11月 58.0% とほとんど改善できていない。

これまで、生徒への働きかけや、自主学習ノートの模範例の掲示、授業と家庭学習を結びつける手立て等を工夫してきたが、あまり効果が出ていない。

⑤全国学力・学習状況調査

数学A 全国比-2.5、 数学B 全国比-1.2 で全国平均という目標を達成できなかった。

生徒質問紙（ ）は目標値

ア 自分には良いところがある 68.4% (80%)

イ 人の役に立つ人間になりたい 93.0% (100%)

ウ 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意 49.1% (60.0%以上)

エ 将来の夢や目標をもっている 72.0% (85.0%)

カ 授業で自分の考えを発表する機会が与えられている 91.2% (95.0%以上)

ク 授業の始めに目標が示されている 93.0% (95.0%以上)

これらの項目で目標を達成できなかった。

⑥高知県学力定着状況調査

1年生の国語 県平均+1.3、理科 県平均-4.3

記述式問題の無答率では、

1年生の社会 20.4%、理科 18.5%、英語 43.2%

2年生の社会 20.5%、数学 22.6%、英語 31.2%

以上の教科で無答率15%以下という目標に達しなかった。

⑦安芸市版学力調査

1年生の全教科で全国平均+3以上という目標を達成できなかった。

2年生の社会-1.2、数学-2.7

3年生の数学-0.6で目標を達成できなかった。

2・3年生は、これらの教科で全国平均に届かなかったが、ここにあげた教科以外は目標を達成できた。

(4) 課題に対する次年度の重点的な取組(改善策等)(番号は検証の表に対応)

②総合的な学習の時間に育った学力についての調査で、特に課題となっていること

12「話し合いのときに、班やクラスの意見をまとめることができる」については、総合的な学習の時間だけではなく、全ての教科における対話的な学びを充実させることで改善していきたい。

19「教科で学習したことを生かして、総合的な学習の時間で調査や分析をしている」については、「9能力の振り返り表」に教科との関わりの欄を新たに設けて、学習活動の中で意識をしていくように工夫する。

20「家族と総合的な学習について話すことがある」については、総合的な学習の時間の学習活動が充実すれば、自然に家庭で家族とその話をするようになると思われるので、総合的な学習の時間の学習活動がより探究的なものになり、ワクワク感が溢れたものにしていくように工夫する。

そのために、本年度の学習活動を振り返り、3年間を見通した活動になるように年間指導計画を見直し、単元計画を改善する。

④家庭学習

家庭学習1時間以上の生徒を増やす取組として

- ・授業の最後に家庭学習における復習や予習の課題を出しておく。
- ・帰りの会の中に家庭学習につながる学習時間を設定する。
- ・生活記録帳に家庭学習の開始時間を書き計画的な取り組みができるようにする。
- ・自主学習ノートや宿題の追い詰めをして家庭学習の習慣化を図る。

⑤全国学力・学習状況調査、⑥高知県学力定着状況調査、⑦安芸市版学力調査

先進校視察で学んだ秋田県横手市立横手北中学校の取組と、秋田大学の阿部 昇先生にご指導していただいた「事前研究を大切にする授業研究の進め方」「授業改善のポイント（教材研究、目標、授業構築）」を参考に授業研究をさらに進めるように工夫し、さらなる学力向上を目指す。

4 加配教員の活用（別葉）

5 その他

- ・学習指導案等、研究に関する資料を添付すること。（提出文書一覧参照）